

ダニ媒介感染症（SFTS）患者の発生について

- 本日、ダニ媒介感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が確認されましたのでお知らせします。
- 春から秋にかけてはマダニの活動が活発な時期ですので、府民の皆さまに対して注意喚起をお願いします。

1 患者の概要

- (1) 年齢・性別等 70歳代、女性、丹後保健所管内在住
- (2) 症状 発熱、全身倦怠感、食欲不振 等
- (3) 患者の状況 医療機関に入院・加療中

2 本府の対応

- ・電話相談窓口の案内
健康対策課 電話番号 075-414-4723（土曜休日を除く9時～17時）
丹後保健所 電話番号 0772-62-4312（土曜休日を除く9時～17時）
- ・府ホームページ「感染症緊急情報」に関連情報を掲載
(<https://www.pref.kyoto.jp/kentai/260903kansenkinkyuu.html>)

3 京都府内におけるこれまでの報告

令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
3件 (推定感染地：与謝野町内、福知山市内2件)	1件 (推定感染地：京丹後市内)	1件 (推定感染地：宮津市内)	1件 (推定感染地：京丹後市内)

【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは】

SFTSは、SFTSウイルスに感染することで引き起こされる病気で、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることで感染します。

潜伏期間は6～14日。症状は発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多く、血小板減少、白血球減少、血清酵素（AST、ALT、LDH）の上昇が認められます。

致死率は10%～30%と報告されていますが、致死率の改善が期待される抗ウイルス薬（ファビピラビル（商品名アビガン錠））が令和6年6月に承認されています。

府民の皆さまへお願い

- 1 感染防止のため、マダニに咬まれないように注意しましょう。
 - マダニは、主に草むらや藪・森林にいます。このような場所で長時間地面に直接寝転んだり、座ったりするのは止めましょう。
 - 草むらなどに入るときは、長袖、長ズボン、手袋、長靴等を着用しましょう。また、色の薄い服はくっついたダニを見つけやすくなります。
 - ダニをよせつけないために、肌の露出部分や服にDEET（ディート）などの有効成分が含まれた虫除け剤の使用も有効です。虫除け剤は皮膚の露出部に使うか、衣服の上から使います。（説明書をよく読んで使用してください。）
 - 帰宅後はすぐ入浴し、体をよく洗い、新しい服に着替えましょう。
 - 着ていた服はすぐに洗濯するか屋外で天日干ししましょう。

- 2 もしマダニ類に刺されたら
 - マダニ類の多くは、人や動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から、長いもので10日間）吸血します。無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ったり、ダニの体内や傷ついた皮膚からでてくる液体に病原体がいる可能性があるため、できる限り直接手でダニを取ったり、つぶしたりせず、すぐに病院で処置してもらいましょう。
 - マダニに刺された後に、発熱等の症状が認められた場合は、早めに医療機関を受診してください。

【本報道発表に関するお問合せ】

健康福祉部健康対策課 参事 山下

電話 075-414-4735

